

# モモの新品種 ‘さきがけはくとう’

日原 誠介・藤井 雄一郎・笹邊 幸男\*

A New Peach Cultivar ‘Sakigake hakuto’

Seisuke Hihara, Yuichiro Fujii and Yukio Sasabe

## 緒 言

岡山県のモモは、古くから果皮が着色しにくい白桃系の品種が栽培されており、‘岡山白桃’の名でブランド化を図っている。このうち中生の‘清水白桃’が、県下のモモ栽培面積の3割以上を占める主力品種となっている。そこで岡山県では、収穫労力を分散化するため、果皮着色が少なく、生産が安定し、品質良好なモモ品種のシリーズ化を図る目的で、これまで晩生の‘白麗’や中晩生の‘おかやま夢白桃’などの新品種を育成してきた(笹邊ら, 2001; 笹邊ら, 2005)。

現在、岡山県で6月下旬から7月上旬に収穫できる早生品種としては、県外で育成された‘はなよめ’と‘日川白鳳’が推奨されている(岡山県, 2011)。しかし、早生品種は梅雨期に成熟するため果実品質が天候の影響を受けやすく、甘味や日持ち性などの果実品質が不安定で、品質の安定した良食味品種が求められている(吉田ら, 1987)。

また、これらの早生品種は着色栽培を前提として育成されたため、岡山県で行われている着色を抑制した有袋栽培に適しているとはいえない(山口ら, 2006)。そのため、着色抑制栽培に適し、果実品質や栽培性に優れた、果皮着色しにくい早生品種の開発が必要となっている。

このたび、岡山県南部で6月下旬から7月上旬に収穫可能で、果皮着色しにくく、果実品質の優れた早生のモモ新品種‘さきがけはくとう’を育成したので、その

育成経過と特性の概要を報告する。

なお、本品種の育成にあたっては、果樹研究所等関係機関の各位から多大のご助言とご協力をいただき、また果樹研究室の歴代職員各位には多大のご協力をいただいた。ここに深甚なる感謝の意を表する。

## 育成経過

‘さきがけはくとう’は、岡山県農林水産総合センター農業研究所(旧 岡山県農業総合センター農業試験場)で、‘大和白桃’に‘華清水’を交配して育成した交雑実生から選抜された(図1)。

種子親の‘大和白桃’は、奈良県立農業試験場において、‘白桃’と‘カールマン’の交雑によって育成された果皮着色の少ない豊産性の中生品種で、花粉を有しないが、生理的落果は少ない。一方、花粉親の‘華清水’は、岡山県総社市の農家が‘清水白桃’の枝変わりとして発見し、品種登録された品種で、核割れが多く、収量が不安定になる欠点を持っているが、早生で果実が大きく、ほとんど着色しない特性を持っている。

そこで、果皮着色が少なく、生産が安定し、果実品質の優れた早生品種を育成する目的で、1999年春に両品種の交配を行った。そして、交雑して得られた種子を湿った砂中に保存し、2000年春に播種し、交雑実生3個体を得て、1年間養成した。

2001年に個体番号‘3南25’を付して育種圃場に定植し、2004年に初結実した。その後、1次選抜試験を継続した結果、有望と判定されたため、2006年から‘岡山

2012年10月1日受理

\*現岡山農業普及指導センター

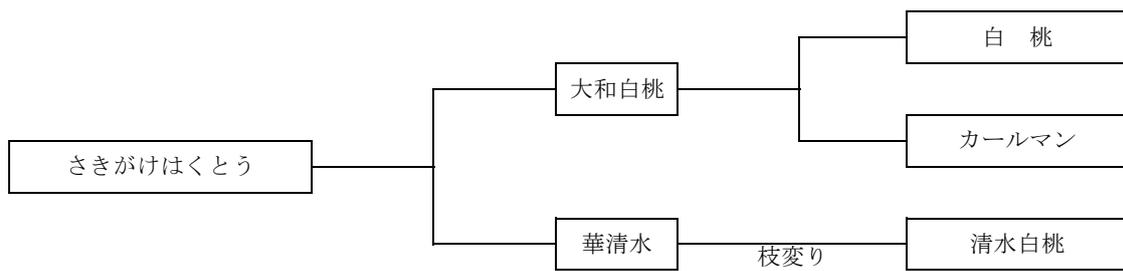


図1 'さきがけはくとう' の系譜図

モモ5号' の系統名を付して、複製個体を作成し、2次選抜試験を実施した。その結果、早生品種としては果汁糖度が高く、果実品質に優れ、果皮着色も少ないことから有望な系統と認められ、2011年10月に品種登録を出願申請し、2012年2月に'さきがけはくとう' の品種名で出願公表された(第26410号)。

### 品種特性

#### 1. 試験方法

昭和52年度種苗特性分類調査報告書〔モモ(毛桃)〕(岡山農試, 1978)並びに育成系統適応性検定試験・特性検定試験調査方法(果樹研究所, 2007)の調査基準にしたがって、育成地において、筑波4号台木に接木した'さきがけはくとう'の複製樹を'はなよめ'、'日川白鳳'と比較調査した

#### 2. 結果及び考察

形態的特性として樹性を表1に、開花特性を表2に、果実と結実の特性を表3～5に、果実の食味特性を表6に示した。特性概要は以下のとおりであった。

##### (1)樹性

樹姿は'はなよめ'と同様の斜上性で、樹勢、樹の大きさは'日川白鳳'と同じ中程度である(写真1)。枝の太さはやや太く、着果枝の着色はやや弱く、'日川白鳳'より着色しにくい。葉身の長さは'はなよめ'よりやや長く、葉身の幅は'日川白鳳'や'はなよめ'よりやや狭く、細長い形をしており、蜜腺は円形をしている(表1)。

##### (2)開花特性

花の咲き型は普通咲で、花弁は中程度の大きさで、広楕円形をしており、花色は'日川白鳳'と同じ桃色である。開花期は'はなよめ'とほぼ同じで'日川白鳳'より3日程度早く、育成地(赤磐市)においては4月上

表1 'さきがけはくとう' の樹性(岡山農研)<sup>2</sup>

品種名	樹姿	樹勢	樹の大きさ	枝の太さ	着果枝の着色	葉身の長さ	葉身の幅	蜜腺の形
さきがけはくとう	斜上	中	中	やや太	やや弱	やや長	やや狭	円形
はなよめ	斜上	中	中	中	中	中	中	円形
日川白鳳	中間	中	中	中	やや強	やや長	やや広	円形

<sup>2</sup>2007～2011年の調査

表2 'さきがけはくとう' の開花特性(岡山農研)<sup>2</sup>

品種名	開花期(月日)			花の咲き型	花弁の大きさ	花弁の形	花色	花粉の有無
	始	盛	終					
さきがけはくとう	4. 2	4. 7	4. 14	普通咲	中	広楕円形	桃	無
はなよめ	4. 3	4. 7	4. 15	普通咲	中	広楕円形	濃桃	有
日川白鳳	4. 6	4. 10	4. 16	普通咲	中	広楕円形	桃	有

<sup>2</sup>2007～2011年の平均値

表3 'さきがけはくとう' の果実特性(岡山農研)

品種名	果形	果頂部の形	梗あいの深さ	果肉		核周囲の着色	果皮の着色 <sup>2</sup>	果皮の付着性
				色	着色 <sup>2</sup>			
さきがけはくとう	卵形	広浅凹	やや浅	乳白	無	無	微	弱
はなよめ	円形	広浅凹	やや浅	乳白	無	無	少	中
日川白鳳	卵形	狭浅凹	中	乳白	少	無	中	中

<sup>2</sup>有袋栽培の成績

旬に開花するが、花粉を持たない(表2, 写真2)。

### (3)果実特性

果形は‘日川白鳳’と同じ卵形で、果頂部の形は広浅凹、梗あいの深さはやや浅い。有袋栽培における果皮着色は微で、‘はなよめ’や‘日川白鳳’より少なく、果肉の色は乳白で、果肉着色は無い。核周囲の着色も無く、果皮の付着性は弱く、はく皮しやすい。(表3, 写真3)。

果実の大きさは210g程度で、‘日川白鳳’よりやや小さいが、‘はなよめ’よりやや大きい。糖度は‘日川白鳳’より高く、‘はなよめ’と同程度で甘い。果汁の酸度は‘日川白鳳’より低く、渋味は無い。肉質は‘はなよめ’より軟らかく、ち密さはやや密で、果汁が多いため、食味評価は‘はなよめ’や‘日川白鳳’より優れると考えられる(表4, 6, 写真4)。

### (4)栽培的結実特性

収穫期は、‘はなよめ’より6日程度遅いが‘日川白鳳’より3日程度早く、育成地(赤磐市)においては、7月上旬に収穫できる。日持ち性は中で、裂果は見られない。核の粘離は半離で、核割れは‘日川白鳳’より少なく、生理的落果も少ない(表5、写真5)。

### 栽培上の留意点

本品種は、‘はなよめ’や‘日川白鳳’に比べて果皮着色が少なく、果実品質も優れることから、岡山県特産の白桃系早生品種として普及が期待されるが、栽培に

当っては以下の点に留意する。

1. 花粉が無いので、人工受粉による結実確保が必要となるが、開花期がやや早いので、‘はなよめ’や‘ゴールデンピーチ’など開花期の早い品種の花粉を受粉する。
2. ‘日川白鳳’に比べて核割れは少ないが、摘果程度が強すぎると果実が大きくなり、核割れが発生することがあるので、強摘果は控える。
3. 果皮の着色は‘日川白鳳’や‘はなよめ’より少ないが、無袋栽培や袋かけが遅れた場合には斑状着色が発生することがあるので、摘果時に着色果を取り除き、早めに袋かけを行うようにする。
4. 成熟期を過ぎると果実が粉質化して、食味が低下することがあるので、収穫時期は遅れないように注意する。

### 命名の由来

本品種の名称は、岡山特産の白桃系品種で、成熟期が早く、他の品種に先駆けて収穫できることから、‘さきがけはくとう’と命名した。ローマ字表記は‘Sakigake hakuto’である。

### 摘要

‘さきがけはくとう’は、岡山県農林水産総合センター農業研究所において育成された早生のモモ新品種で、

表4 ‘さきがけはくとう’の果実品質(岡山農研)<sup>z</sup>

品種名	果実重 (g)	糖度 (Brix)	酸度 (pH)	肉質		渋味 多少	食味 評価 <sup>y</sup>	果汁 多少
				硬軟	粗密			
さきがけはくとう	210	11.7	4.3	軟	やや密	無	中中	多
はなよめ	175	12.1	4.2	中	やや密	無	中下	中
日川白鳳	251	10.8	4.1	やや軟	中	微	下上	中

<sup>z</sup>2007～2011年の平均値

<sup>y</sup>食味評価は下下～上上の9段階評価

表5 ‘さきがけはくとう’の結実特性(岡山農研)<sup>z</sup>

品種名	収穫期(月・日)			日持 ち性	裂果 多少	核の 粘離	核割れ 多少	生理的 落果
	始	盛	終					
さきがけはくとう	6.30	7.3	7.8	中	無	半離	少	微
はなよめ	6.23	6.27	6.29	やや良	無	粘	微	微
日川白鳳	7.2	7.6	7.8	中	無	粘	多	微

<sup>z</sup>2007～2011年の平均値

表6 ‘さきがけはくとう’と基準品種との食味官能評価の比較(岡山農研)

基準 品種 <sup>y</sup>	食味評価 <sup>z</sup>							評価 人数
	外観	香り	甘味	酸味	渋味	硬さ	総合	
はなよめ	0.81	0.31	0.77	0.07	0.12	1.02	0.80	55
日川白鳳	1.49	0.74	1.18	0.72	0.51	0.70	1.28	154

<sup>z</sup>数値は基準品種を0とした-5(極不良)～5(極良)の11段階評価の平均値で、硬さは軟を+表示

<sup>y</sup>基準品種の‘はなよめ’は2006～2007年と2011年、‘日川白鳳’は2008～2010年の平均値

その来歴及び特徴は次のとおりである。

1. ‘さきがけはくとう’は‘大和白桃’に‘華清水’を交雑して育成したモモ新品種で、1999年に交配を行い、2000年に播種して育苗し、2001年に育種圃場へ定植した。その後、1次選抜試験で有望と判定されたため、2006年から‘岡山モモ5号’の系統名で2次選抜試験を実施した。その結果、早生品種としては果実品質が優れ、果皮着色も少ないことが認められたため、2011年に品種登録を出願申請し、2012年に‘さきがけはくとう’の品種名で出願公表された。
2. 樹の大きさ、樹勢は中で、開花期は‘日川白鳳’より早く、花粉を持たない。
3. 果実の大きさは、‘日川白鳳’より小さいが、‘はなよめ’より大きく、果皮着色は少ない。果肉は乳白色で、果肉着色は無い。糖度は‘日川白鳳’より高く、肉質は軟らかくて、ややち密で、果汁が多いため、食味評価は‘はなよめ’や‘日川白鳳’より優れる。
4. 収穫期は‘日川白鳳’より3日程度早く、育成地においては7月上旬となり、核の粘離は半離で、核割れや生理的落果は少ない。

## 引用文献

- 果樹研究所（2007）育成系統適応性検定試験・特性検定試験調査方法. pp73-96
- 岡山県（2011）岡山県果樹農業振興計画, 5p
- 岡山県立農業試験場（1978）昭和52年度種苗特性分類調査報告書〔モモ（毛桃）〕. 267p.
- 笹邊幸男・藤井雄一郎・各務裕史・片岡正治・木村剛・紅谷文夫・平松竜一・依田征四（2001）モモの新品種‘白麗’の育成. 岡山農試研報, 19:25-27
- 笹邊幸男・藤井雄一郎・各務裕史・片岡正治・木村剛・紅谷文夫・平松竜一（2005）モモの新品種‘おかやま夢白桃’の育成. 岡山農試研報, 23:13-15
- 山口正巳・土師岳・西村幸一・中村ゆり・八重垣英明・三宅正則・京谷英壽・吉田雅夫・小国照雄・木原武士・鈴木勝正・福田博之（2006）モモ新品種‘白秋’. 果樹研報, 5:51-61.
- 吉田雅夫・山口正巳・京谷英壽・小国照雄・西田光夫・石澤ゆり（1987）モモの新品種‘ちよひめ’について. 果樹試報, A14:1-8

## Summary

‘Sakigake hakuto’ is a new peach cultivar released by Research Institute for Agriculture Okayama Prefectural Technology Center for Agriculture, Forestry and Fisheries. It resulted from the cross of ‘Yammato hakuto’ and ‘Hana simizu’ in 1999.

This variety can be harvested at early in July in Okayama. The size and vigorousness of the tree is middle. The blooming time is relatively early and pollen sterile. The fruit is middle size with high sugar content. It has a good taste for dessert. The skin color is white and the flesh is white in color with less red pigment around the pit. The physiological fruit drop and split pit is little. But paper bagging of fruit is necessary to obtain the white skin fruit.

It is highly recommended to grow this cultivar in areas like Okayama where the ‘white peach’ production is widely known in Japan.



写真1 ‘さきがけはくとう’の樹姿(複製樹)



左：はなよめ 中：さきがけはくとう 右：日川白鳳

写真2 花の比較



写真3 ‘さきがけはくとう’の果実断面



左：はなよめ 中：さきがけはくとう 右：日川白鳳

写真4 果実の比較



写真5 ‘さきがけはくとう’の樹上における成熟果